

歩^大正第六十二聯隊外一部隊出納官吏ノ保管ニ屬スル現金亡失ニ關シ
別紙ノ通及通牒候也

大臣ヨリ大藏大臣及會計検査院長へ通牒

陸支普第一九六四號 昭和四年七月十九日



陸軍
支那駐屯軍
支那駐屯軍

一、出納官吏ノ所属官氏名

警津部隊分任官陸軍主計少尉森晋伍所属歩兵第六十二聯隊第二大
隊分任官陸軍主計少尉稻毛一三所属同聯隊第五中隊複分任官陸軍
歩兵曹長尾山利徳所属同中隊第一小隊

複分任官陸軍歩兵軍曹佐々木太郎

二、被害ノ日時及場所

昭和十四年四月二十一日一時頃

江蘇省沛縣廟道口東南方千米劉庄南方部落

三、被害ノ日時タル事實ノ狀況

歩兵第六十二聯隊第五中隊第一小隊ハ昭和十四年四月十五日ヨリ
沛縣廟道口南方七〇〇米ノ二郎廟ニ在リテ警備ニ從事中複分任官
佐々木軍曹ハ下士斥候長トシテ四月二十日劉庄附近ノ敵狀搜索ヲ
命セラレ十一時三十分二郎廟出發劉庄南方無名部落ニ進出シタル

陸軍

時敵艦約二百ノ包圍ヲ受ケ全員死力ヲ盡シ奮戦シタルモ衆寡敵セ
ス遂ニ全滅スルニ至リタリ

四 被害金額

軍票 七拾五圓也

五 被害事實發見ノ動機

二十三時中隊主力増援ト共ニ翌朝七時同部隊ヲ攻撃占領シ調査ノ
結果軍曹以下四名ハ戦死シ軍曹ノ携行金ハ焼失シアリタルコト判
明セリ

六 平素ニ於ケル現金管守ノ方法

常時ハ小隊衛兵所ニ保管シアリタルモ行動間ハ佐々木軍曹現金ヲ
携行シ自ら保管シアリタリ

一、出納官吏ノ所屬官氏名

中支那派遣軍經理部分任資金前渡官吏陸軍主計大尉和田藏造所屬
第十六師團經理部分任官陸軍主計大尉野口武男所屬

騎兵第二十聯隊分任官陸軍主計中尉澤田幸太郎

二、被害ノ日時及場所

昭和十四年四月十二日十時五十分頃

湖北省天門縣沙灘口附近

三、被害ノ原因タル事實ノ狀況

四月十日分任官澤田主計中尉ハ助手西田主計曹長ニ命シ應城師團
經理部ニ到リ前渡資金參萬圓ヲ受領セシム依テ曹長ハ右前渡資金
ヲ受領シ之カ監守ヲ金櫃衛兵司令岡田騎兵少尉ニ託セリ岡少尉ハ
同隊水上輸送監視隊（岡田少尉以下十四名金櫃衛兵共）ヲ指揮シ
四月十一日十三時十二艘ノ民船ニ分乗也市出發天門ニ向フ途中鄂

陸軍

十二日十時五十分頃沙灘口南方ヲ南航中東岸ノ敵正規軍約百五十ヨリ猛射ヲ受ケ之ニ應戰中土民ナル船頭ハ恐怖狼狽シ船航意ノ如クナラス少尉ノ乗航セル金櫃搭載船ハ東岸近ク漂流シ遂ニ敵ハ攻勢ニ出テ金櫃ノ危難避ケ難キヲ察知シタル少尉ハ敵ヲ呼弑テ以テ酒箱ニ結付水中ニ投入ノ上水中ニ飛込辛フシテ西岸ニ辿リ藩兵ヲ集結死力ヲ盡シテ應戰シ敵ノ間隙ヲ突破シ友軍ニ急報セリ

四 被害金額

軍樂貳萬九千九百九拾圓也

邦貨拾圓也

合計參萬圓也

五 被害事實發見ノ動機

金櫃搭載船ニアリシ西田主計曹長ハ西岸ニ至リ主力ニ合セントセシモ遊泳不能ニシテ船頭モ亦既ニ逃亡シアリシヲ以テ西岸ニ墜ル

衛ナク東岸漂着船ヨリ上陸提防ノ死角ヲ利用決死敵ノ間隙ヲ疾走
 危地ヲ脱シ天門警備隊ニ急報セシニ依ル

六 平素ニ於ケル現金管守ノ方法

隊長ノ規定セル金櫃管守法ニ依リ金櫃衛兵ハ司令以下六名ヲ附シ
 アリタリ而シテ火災敵襲其ノ他ノ事由ニ依リ金櫃ニ危害ヲ及サン
 トスル場合ニシテ而モ事急ヲ要スル場合ハ監守者ニ於テ獨斷ヲ以
 テ金櫃ヲ安全ナル場所ニ移シ後出納官更若ハ日直將校ニ通報スル
 ノ規定ナリ

七 其他

西田曹長ノ報告ニヨリ直ニ天門警備隊長以下二百五十名救援ト金
 櫃搜索ノ爲出動河川並民船ヲ搜索セルモ遂ニ金櫃ハ發見スルニ至
 ラス

陸軍

前渡資金七次報告書

一出納官吏、所屬官氏名

第三師團經理部分任官陸軍主計少尉森晋吾所屬

歩兵第六十二聯隊第三大隊分任官陸軍主計少尉稻毛一三所屬

同 第五中隊複分任官陸軍歩兵曹長尾山利徳所屬

同 第五中隊第一小隊複分任官陸軍歩兵曹長尾山利徳所屬

六被害、日時場所

昭和十四年四月二十一日 一時頃

中華民國江蘇省沛縣廟道口東南方一〇〇〇米劉庄

南方無名部落

三被害ノ原因タル事實ノ状況

歩兵第六十二聯隊第五中隊第一小隊ハ四月十五日沛縣

廟道口南方七〇〇米ノ二郎廟ニ警備隊トシテ駐屯

ヲ命セラレ同日ヨリ該地ニ在リテ警備ニ從事中

復分任官佐ハ木軍曹ハ下士乍候長トシテ兵三名ヲ率ヒ四月二十日劉庄附近ノ敵狀搜索ヲ命セラレテ一時十分二郎廟ヲ出発ス同乍候劉庄南方無名部落ニ進出シタル時敵匪首馮子固ノ率ヒル約二百ノ敵ニ包圍ヲ受ケ全員死力ヲ盡シテ交戦シタルモ彈藥ノ欠乏ヲ來シ最後ニ肉彈突撃セルモ衆寡敵セス遂ニ全滅スルニ至リタリ同時小隊主力モ亦約四百ノ敵ト交戦中ニシテ同乍候ノ救援出撃ヲ許サス

二十三日中隊主力増援ト共ニ翌朝七時同部落攻撃ヲ占領シ調査ノ結果佐々木軍曹保管ノ現金ハ燒失シアリタルユト判明セリ

四被害ノ金額

被害金額ハ調査ノ結果七拾五圓ニシテ全部軍票ナリ

五、被害事實發見ノ動機

四月二十日ニ郎廟警備隊長タル桑本少尉ヨリ目下敵約一千ノ攻撃ヲ受ケ交戦中ナリトノ密偵ノ報告十八時受領ス

中隊ハ急遽之ヲ救援ニ赴クニ決シ中隊長宮下中尉ハ機関銃一分隊歩兵砲一分隊ヲ合セ指揮シ當日十九時市縣出發ニ至リ四十分ニ郎廟ニ達ス同時桑本少尉ハ警備隊東方四〇〇米ノ地兵ニ於テ敵ト對峙中ナリ中隊長ハ現在地ニ於テ部隊ヲ集結シ夜暗ニ乘シ前進ヲ續行シ明拂曉ヲ期シ該無名部落ヲ攻撃スルニ決シテ翌朝敵一部ノ抵抗ヲ受ケタルニ突撃ヲ敢行シ同部落ヲ占領ス

同時佐々木軍曹以下四名ハ全員戦死シ佐々木軍曹ノ遺行金ハ燒失シアリタリ

六、平素ニ於ケル現金管守ノ方法

常時ハ小隊衛兵所ニ保管シアリタルモ行動間ハ佐々
 水軍曹現金ヲ携行シ自ラ保管シアリタリ
 被害ニ對スル處置
 狀況判明ト共ニ関係各所ニ報告通報ス
 責任者ニ對スル處置
 直接ノ責任者戦死シ為別段ノ處置也ス

0690

昭和四年四月二十日、二十一日

佐々木軍曹前渡亡失時於ケル戦闘詳報抜萃

歩兵第六十二聯隊第五中隊

佐々木軍曹前渡資金亡失時ノ戦闘詳報

一 戦闘前ニ於ケル敵情ノ概要

四月十九日十二時密偵ノ報告ニ依リ北丁官屯(廟道
 口東北八軒)ニ共匪約ニソリ集結シ共ノ小部隊
 ハ楊官屯方面ニ南下セル旨情報ニ接ス
 二 桑本少尉ハ佐々木軍曹以下四名ヲ以テ劉庄附
 近ノ敵情ヲ搜索セシム 其ノ命令左記ノ如シ

左記

命令

一 佐々木軍曹ハ部下四名ヲ以テ午後トナリ二十日
 十二時三十分現在地出発ニ郎廟東北方約八百劉
 庄附近ノ敵情ヲ搜索シ三十分後返ニ歸還ス
 ハシ

三 佐々木軍曹候戦闘經過ノ概要

佐々木汗候長以下四名ハ命令ニ基キ劉庄南方無名
 部落ノ敵情搜索スヘク進入セントスルヤ部落東端ニ
 敵兵ヲシキ者発見シ之ヲ確カメント前進中百餘
 名ノ敵現出シ前方及側方ヨリ射撃ヲ受ケ之ニ
 應戦シ速ニ小隊主力ニ報告セントスルモ敵ハ續々ト
 増加シ遂ニ敵ノ重圍ニ陥リ最早奪出ノ處置
 ナシト惚リタル汗候長ハ死ヲ決シ剛膽克ク部
 下ヲ指揮シ家屋ニ籠リ各々配置ニ就カシメ奮
 闘ヲ續行シ同日二十四時ニ至ル迄十二時間克ク
 應戦スルモ遂ニ彈藥ニ欠乏ヲ來セハ最後ノ手段ト
 シテ汗候長以下一齊ニ自兵ヲ以テ敵中ニ突入シ奮
 戦乱闘ヲ重ネ敵十數名ヲ斃死シ壯烈ナル戦死ヲ
 遂ク

0593 0594

方軍經監第一三八號

五〇五二



陸



出納官吏保管金亡失ニ関スル件報告

昭和四年六月六日

北支那方面軍司令官杉山元

陸軍大臣板垣征四郎殿

報告ス

監	金
査	職
課	前
	野
	吉
	川
	本
	城
	海
	島
	良
	寶
	大
	野

昭和十四年四月二十日 江蘇省沛縣廟道口附近

三、被害ノ原因タル事實ノ狀況

江蘇省沛縣廟道口附近ノ戦闘ニ於テ複分任官斃死ノ際保管金ヲ焼失セルモノニシテ詳細ハ目下調査中

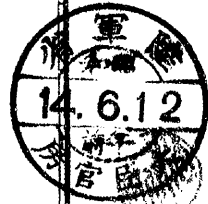
三、被害金額及複分任官所属氏名

金 七五〇〇〇

第三二師團所属

方軍經監第一三八號

五〇五二



陸



出納官吏保管金亡失ニ関スル件報告

昭和四年六月六日 北支那方面軍司令官杉山元

陸軍大臣板垣征四郎殿

首題ノ件ニ関シ左記ノ通り報告ス

記

一被害日時場所

昭和十四年四月二十日 江蘇省沛縣廟道口附近

二被害ノ原因タル事實ノ状況

江蘇省沛縣廟道口附近ノ獸鬪ニ於テ複分任官獸死ノ際保管金

ヲ焼失セルモノニシテ詳細ハ目下調査中

三被害金額及複分任官所属氏名

金 七五円〇〇〇

第三師團所属

0595

歩兵第六十三聯隊第一大隊分任官主計少尉 稻毛一三 所属
複分任官 陸軍歩兵軍曹 佐々木太郎

（朝日新聞）



支書 三三二六

陸軍大臣板垣征四郎殿
本年四月十四日京經主電第39號ヲ以テ
電報報告セシ旨
第十七師團長藤江惠輔
亡失金ニ関スル件報告

京經主第六九號

昭和拾四年五月四日
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

課	監
甲	全
旅	鐵
少	前
旅	野
少	吉
旅	旅
少	本
旅	旅
少	南
旅	島
少	長
旅	官
少	大
旅	官

昭和十四年五月八日
14.5.28
午前
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿
14.5.8
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿
5.7
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

陸軍省
14.6.9
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

陸軍省
14.5.30
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

陸軍省
14.5.31
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

陸軍省
150
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

陸軍省
14.5.4
陸軍省
陸軍大臣板垣征四郎殿

昭和十四年五月八日

前渡資金亡失報告書

一出納官吏、所屬官氏名

中支那派遣軍經理部分任資金前渡官吏陸軍主計大尉和田藏造所屬
第十六師團經理部分任官陸軍主計大尉野口武男所屬

騎兵第二十聯隊分任官陸軍主計中尉澤田幸太郎

二被害ノ日時及場所

日時 昭和十四年四月十二日十時五十分頃

場所 中支那湖北省天門縣沙灘口附近

三被害ノ原因タル事實ノ狀況

四月十日騎兵第二十聯隊分任官陸軍主計中尉澤田幸太郎ハ助手西田主計曹長ニ命シ應城師團經理部ニ到リ前渡資金參萬圓ヲ受領セシム
西田主計曹長ハ右前渡資金ヲ受領シ之カ監守

ヲ金櫃衛兵司令岡田騎兵少尉ニ託セリ
 岡田騎兵少尉ハ同隊水上輸送監視隊（岡田騎兵
 少尉以下十四名ヲ以テ編成シ内入金櫃衛兵司令
 以下六名ヲ含ム）ヲ指揮シ四月十一日十三時十二
 艘ノ地方民艇ニ分乗シ豊市出發天門ニ向テ
 入金櫃衛兵左ノ如シ

衛兵司令

岡田騎兵少尉

衛兵（取扱者）

西田主計曹長

同

久保歩兵上等兵

同

中川歩兵一等兵

同

丸野歩兵一等兵

同

中村騎兵一等兵

入金櫃衛兵及水上輸送監視隊航行序列

別紙要圖第一ノ如シ

3. 金櫃衛兵及水上輸送監視隊、敬言戒部署左ノ如シ
(別紙要圖第一參照)

坂本輜重兵一等兵 船團誘導

丸野歩兵一等兵 前方警戒

中村騎兵一等兵 左方警戒

久保歩兵上等兵 右方警戒

清水歩兵上等兵 後半船團指揮

4. 戦闘ニ至ルマテノ行動經過ノ概要

別紙要圖第二ノ如シ

5. 敵襲ニ際シ採リタル處置並ニ戦闘ノ概要(要圖第一參照)

四月十二日十時五十分頃沙灘口(天門東北方十二
料)南方約一軒新洲灣東側附近ヲ南航中
前方東岸ノ對家新場ヨリ輕機二ヲ有スル敵

正規軍約百五十ヨリ猛烈ナル射撃ヲ受ク爲
 ニ船頭ハ恐怖狼狽シ船航序列混乱ス 岡田騎
 兵少尉ハ射撃ヲ以テ應戦ニ努ムルト共ニ船艇ヲ
 西岸ニ着ケ此ノ敵ニ應戦セント決心シタルモ支那
 土民ナル船頭ハ岡田騎兵少尉ノ言語ヲ解セス
 船艇ハ岡田騎兵少尉ノ意ノ如ク行動セス自失
 セル船頭ニヨリ十一艘ハ西岸近ク乱漕シ岡田
 騎兵少尉又西田主計曹長ノ乗船セル金櫃塔
 載船ハ東岸近ク漂流ス
 此ノ時①ノ敵ハ我カ兵力ノ虧キヲ知リタルモノ、如ク
 喇叭ヲ吹奏シ喊聲ヲ響ケ堤防ヲ棄リ起ヘ突
 撃ノ態勢ヲ採ル此ニ於テ岡田騎兵少尉ハ竹村
 歩兵伍長ニ重要書類ノ處置ヲ命スルト共ニ
 金櫃衛兵ニ射撃ヲ以テ①ノ敵ニ應戦ヲ命ス

金櫃衛兵久保上等兵以下ハ漸ク西岸ニ上陸シ
 獨立家屋ヲ陣地トシテ對岸ノ敵ニ應戰ス此ノ
 時岡田騎兵少尉ハ金櫃ノ危難避ケ難キヲ察ス
 知シ敵ヲ手拭ヲ以テ酒箱(大本入)ニ之ヲ結着
 シ西岸ニ計習長ト協力シテ水中ニ投入ス
 次テ岡田騎兵少尉ハ衣服ヲ脱シ水中ニ飛ヒ込
 辛ニテ西岸ニ辿リ着キ金櫃衛兵並ニ竹村伍
 長以下ヲ指揮シ陣形ヲ整フ時ニ土時
 敵ハ既ニ對家新場ヨリ北方②ニ移動シ我ニ向
 ヒ熾ニ「チエツ」已輕機関銃ヲ以テ猛射ス此ノ頃後
 方堤防④ニ約五十ノ便衣ヲ着セル敵ハ我カ背
 後ヨリ猛烈ニ射撃ス岡田騎兵少尉ハ竹村歩
 兵伍長ヲ以テ後方警戒戒ニ任セシメ兼ネテ此ノ
 敵ト對戰セシム

尚此ノ頃 ①部落ヨリ敵約五十現ハレ附近ニ繫留
 レアリシ民船ニ乗船セシモ衛兵及輸送監視隊ノ的
 確ナル射撃ヲ依リ渡河ヲ断念セシメ得タルカ如ク敵
 ハ東岸ニ引返シ ①部落ニ後退シ雨ヒ我ト相對ス
 此ノ時敵ハ盛ニ喇叭及小笛ヲ吹奏シツ、三方ヨリ
 氣勢ヲ纏テ我ヲ脅威ス
 岡田騎兵少尉ハ金櫃衛兵並ニ竹村歩兵伍長以
 下ヲ指揮シ死カシ盡シテ戦闘中天門方向ニ
 友軍ラシキ銃聲ヲ聞ク岡田騎兵少尉ハ之ヲ本
 朝天門ヨリ息市ニ向フヘキ定期水上輸送隊ナリ
 ト判断シ一縛ノ望ヲ囑シタルモ意外ニモ突如對
 岸蔡劉ハコヨリ渡河セシト思ハル、敵約百カハ
 細流ノ線ニ散開シ前進シ來ル我ハ之ニ對シ俄然
 射撃ヲ浴セタル爲敵ハ堤防ニ後退ス時ニ殘輝

三十数發ナリ

○堤防上ノ敵ハ一部ヲ残シテ渡河シ來レル敵ト
 相呼應シ楊家灣ニ移動ス時ニ十一時五十分
 此ニ於テ岡田騎兵少尉ハ清水歩兵上等兵以下二名
 ヲ以テ天門ニ連絡セシメントセシカ敵ハ四方ヲ封シ連
 絡路ヲ斷キタル爲天門ニ急報スル術ヲキテ以テ
 已ムナク皇市ニ向ハシム

敵ハ我カ彈藥ノ既ニ盡キシヲ察知セルモノ、如ク
 逐次兵力ヲ増シ氣聲ヲ響ケツ、我ニ迫ル

岡田騎兵少尉ハ自カヲ以テ敵ヲ較手退スル能ハサル
 ヲ悟リ或ハ金櫃ノ敵手ニ入ルヲ慮リ速カニ本朝皇
 市出發ノ辰巳軍曹、指揮スル定期水上輸送隊
 ニ連絡スルト共ニ皇市警備隊ニ急報セント決心シ
 後方○ノ堤防上ノ敵ノ間隙ヲ突破シ先ツ沙

四、被害金額

灘口ニ兵カヲ集結シ皂市ニ向ヒ急行ス
 之ヨリ先キ金櫃塔載船アリシ西田主計曹長
 ハ西岸ニ至リ主カニ合セントセシモ游泳不能ニシ
 テ船頭モ亦既ニ逃亡シタル後ニシテ西岸ニ至ル
 術ナク已ムナク東岸ニ漂着セル船ヨリ上陸シ提防
 ノ死角ヲ利用シ一時敵眼ニ遮蔽ス時既ニ敵
 ハ西田主計曹長ノ身邊ニ迫リシヲ以テ決死身ヲ
 挺シテ敵ノ間隙ヲ疾走シ幸シク危地ヲ脱セリ
 然レトモ主カ方面ノ状況著シク不々ナリシヲ以テ
 速オニ之ト連絡センカ爲下流ニ迂回セシモ主カノ
 位置判明セサルト敵カハ細流ノ合流點附近ニ
 蟄集シアリテ連絡容易ナラサルヲ察知シ急報ヲ
 翻シテ天明警備隊ニ急報ス

軍需費萬九千九百九拾圓

邦貨拾圓

合計多寡圓也

五、被害事實發見、動機

西田主計曹長、天門警備隊ニ急報セシ依ル

六、平素ニ於ケル金櫃監守ノ方法

支那事變間騎兵第二十聯隊金櫃監守法ニ依ル

一騎兵第二十聯隊人金櫃監守法寫別紙ノ如シ

七、被害ニ對スル處置

八、西田主計曹長ノ報告ニ依リ直クニ天門警備隊

ヨリ警備隊長須藤騎兵中佐以下二百五十名團

田騎兵少尉救援ト金櫃搜索、島水路及陸路ニ

依リ遭難地沙灘口ニ出勤ス天門警備隊ハ二

十一時沙灘口ニ着セルモ既ニ敵ノ附近部ヲ略シ

土民之又悉ク逃亡シ敵狀搜索ノ術ヲクバムヤク
一部(山崎准尉、指揮スル半小隊)ヲ残置シ人五
櫃ヲ搜索セシメ翌十三日二時三十分沙灘口出
發天門ニ歸還ス

(イ) 天門敬言備隊ノ出勤ニ當リテハ分任官澤田主計
中尉ヲシテ兵二十ヲ區處シ遭難地上下流約二
ニ亙リ地方民船及河中ノ搜索ヲ実施セシメテ遂
ニ人五櫃ヲ發見シ得ス

(ロ) 又之尙時ニ信定歩兵中尉、指揮スル百名及先
田騎兵中尉ノ指揮スル七十名ヲシテ遭難地ヲ
中心ニ約一軒ノ範圍ノ河川並ニ附近部落ヲ搜
索スルモ逐ニ金櫃ヲ發見スルニ至ラス

(ハ) 残置セル山崎小隊ハ遭難地附近監視並ニ既ニ出
勤セル皂巾敬言備隊ト連絡ノ爲現場ニ止リ羽立

十三日天明ト共ニ河川及附近ヲ搜索セシモ金櫃ハ發見シ得ス

又、岡田騎兵少尉ノ報告ニ依リ皂市敬警備隊ハ野砲一ヶ中隊ヲ出勤シ岡田騎兵少尉誘導ノ下ニ白七市ノ遭難地間及現場ヲ搜索セシメタルモ金櫃ヲ發見シ得ス

十六日皂市ヨリ衛兵人員ノ大部歸還セルヲ以テ更ニ急ノ為モ利歩兵中尉ノ指揮スル四ヶ班ニ此ノ衛兵ヲ隨行セシメ四月十七日天明ノ沙灘口間ノ河川及附近部サテヲ綿密ニ搜索セシメタルモ金櫃ヲ發見シ得ス

如ク數次ニ亙リ搜索セシモ發見シ得ザリシヲ以テ水中投下當時至近ノ距離ニマリテ我ヲ攻撃セル敵ノ感知セル處トナリ遂ニ掠奪セラレタルモノト判断セ

入
ラ
責任者ニ對スル處置

岡田騎兵少尉

重 謹 慎

五 日

四割目

書類並ニ金櫃ニ對シテ取りタル處置ハ、真ニ已ムヲ得
サルニ高輸送ヲ完全ニシテナル責任ナシトセズ

要圖第一

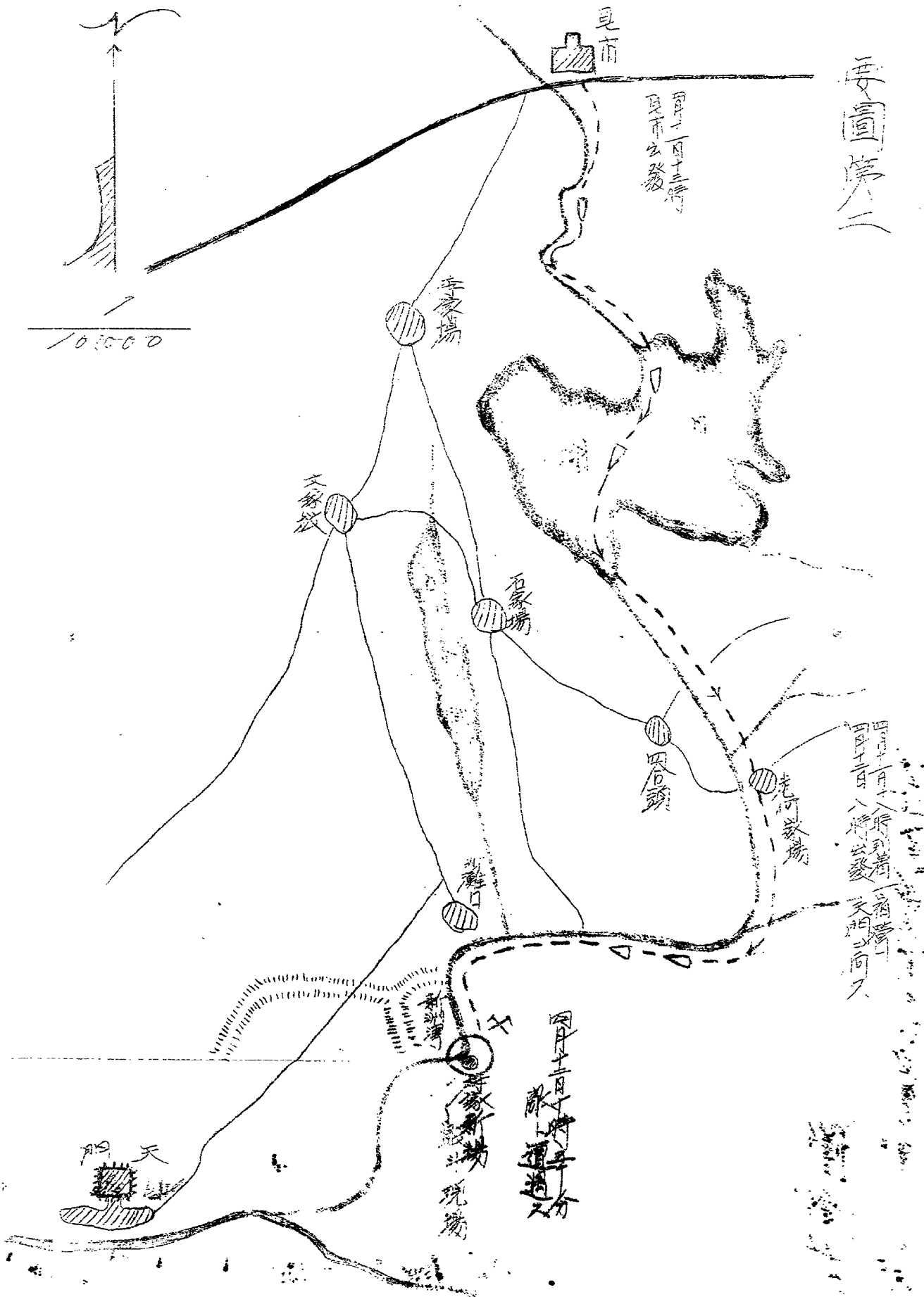
航行序列畧圖

備考
(大) 八 大 行 李 特 務 兵 ヲ 示 ス

重 櫃 衛 兵

- △ 阪本(大)
- △ 竹村(歩伍)
- △ 丸野(歩一)
- △ 中村(騎一)
- △ 岡田(少尉)
- △ 西田(主計曹長)
- △ 久保(歩上)
- △ 中川(歩一)
- △ 清水(歩上)
- △ 吉田(大)
- △ 北野(大)
- △ 通譯
- △ 高橋(大)
- △ 同行連絡兵
- △ 中沼(大)

圖 過 後 島 行 團 船 送 輸

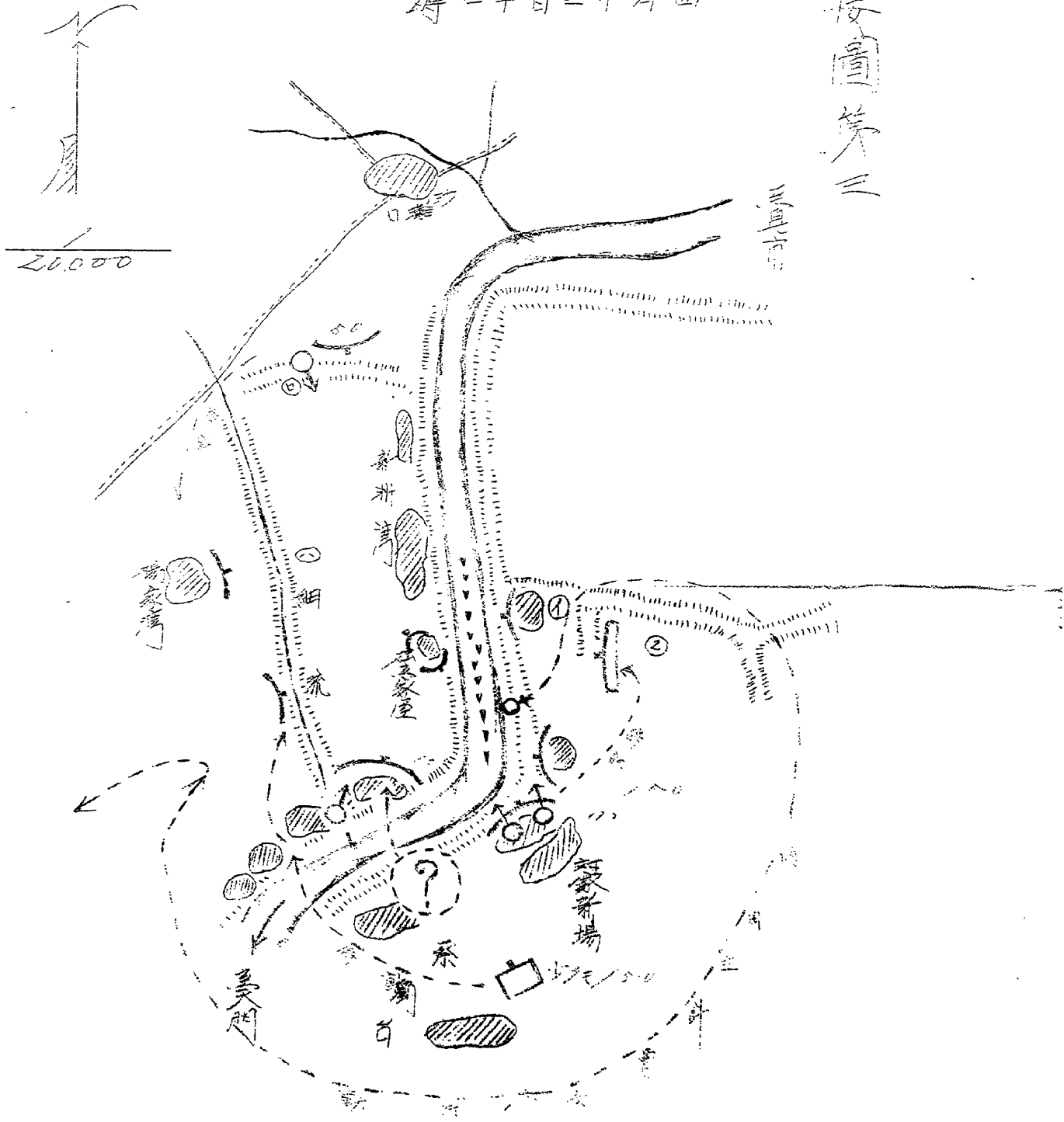


0610

戰之三要圖

時 = 十日 = 十月四

要圖第三



0611

昭和十二年九月三日騎兵第二十聯隊命令別紙

金櫃監守法

一金櫃監守者ヲ左ノ通定ム

一宿営間ハ衛兵司令

ハ輸送行軍戦闘間ハ特ニ定ムラレタル金櫃衛

兵司令

二金櫃ハ宿営間ハ衛兵所ニ置キ行軍戦闘間ハ大

行李ニ置クモトス

但出納官吏ノ責任ヲ以テ一時其ノ居室ニ置クコト

ヲ得

三金櫃ハ出納官吏ノ外開閉ヲ許サス

四衛兵司令、出納官吏又ハ金櫃衛兵司令ノ間ニ於テ

金櫃ヲ授受セントスル時ハ金櫃授受簿ニ所要ノ記

入ヲ爲シ捺印ノ上之ヲ行フヘシ

五、金櫃ハ衛兵司令出納官吏、金櫃衛兵司令ノ外授
受ヲ許サス

六、金櫃衛兵ハ司令以下五名以上トス

七、野外ニ於ケル金櫃ヲ卸下シタル場合ハ衛兵ノ一名ハ必ズ之
ニ腰掛ケ居ル可シ

八、金櫃ニ異状アルコトヲ發見シタル時ハ其ノ儘トシ速カニ
出納官吏又ハ曰直將校ニ通報又ハ報告スヘシ

九、火災敵襲其ノ他ノ事由ニ依リ金櫃ニ危害ヲ及サ
ントスル場合ニシテ而モ事急ヲ要スル場合ハ監守者
於テ獨斷ヲ以テ金櫃ヲ安全ナル場所ニ移シ後出納
官吏若ハ曰直將校ニ通告スヘシ

主任

0614

通報先

秘電報 第

軍和陸 14.4.5

大 臣 宛 發信者 第十四師團長

第十四師團長

陸軍省 14.4.17

陸軍省 14.4

陸軍省 14.4.22

陸軍省 14.4.19

四月四日午前四時三十分

當師團騎兵第二十隊使前殺資金輸送中

四月十一日十一時三十分應城西南方十

里挖難口ニ於テ敵襲ヲ受ケ 軍票ニ万

九十九百九十円邦貨十円計三万円掠奪

セラル 詳細後報又

(終)

陸軍

第十軍經理部長
京經主第一〇三號

陸軍省
和昭
6.19
前午
官臣

中文經主第三六〇號

陸軍省
14.6.19
監査課

金櫃檢定書提出ノ件報告

昭和四年六月六日

陸軍大臣 殿

第十六師團經理部長

本年四月十二日當師團騎兵第二十聯隊分任官陸軍主計中尉澤田幸太郎取扱ニ係ル前渡資金亡失セシニ付陸軍會計事務規程第九十五條ニ依リ金櫃檢定書別紙ノ通提出ス

監査課	
金	金
庫	庫
前	前
部	部
長	長
官	官
臣	臣
印	印

9190

検査員

陸軍騎兵中尉 光田寅藏

騎兵第二十聯隊

分任官 陸軍主計中尉 澤田幸太郎

昭和十四年四月十二日 騎兵第二十聯隊 金櫃檢定書

借	科 目		貸
	人件費	俸 給	24,732.500
		旅 費	
		備 給	
	物件費	諸 手 當 費	
		需 品 費	2,734.000
		糧 秣 費	1,533.560
24,750		兵 器 費	
		馬 匹 費	420.000
80,000		運 輸 費	
1,000		築 造 費	
11,000		接 待 費	
		雜 費	401.000
2,482,520		分 任 官	
3,000,000	酒 保 流 用 金		
36,550.120	軍 票		
160,000	邦 貨		
42,821,150	合 計	42,821,150	
備 考	軍票 24,440,000 } 計 30,000,000 (亡失金) 邦貨 10,000 } 本書記載金額より現存額不足ス		